



# けやき会通信



新任のご挨拶 代謝内分泌内科 医員 高野 倫嘉

本年4月から関東中央病院代謝内分泌内科に医員として着任しました高野倫嘉と申します。倫嘉は「のりよし」と読みます。私は聖マリアンナ医科大学を卒業し、2012年から東京女子医科大学病院で初期臨床研修を行い、その後に東京女子医科大学病院高血圧内分泌内科に入局しました。以前関東中央病院に在籍していらっしゃった佐田晶先生、野村瞳先生の後輩にあたります。東京女子医科大学病院では主に下垂体、甲状腺、副腎といった一般的にはあまり馴染みのない病気の治療に従事しておりました。



しかしその間も外来では多くの糖尿病の患者さんの加療のお手伝いをさせて頂きました。糖尿病は不思議な病気で、糖尿病自体が悪化して亡くなることは稀だと思います。その代わりに致死的でその後も後遺症を残す様な大きな病気を引き起こしやすくなるのが糖尿病の恐ろしい所です。高血圧も同様です。このような大きな病気を引き起こす病気を未然に防ぎ、もし罹患してしまっても大きな病気に繋がらないようするのが自分の役目だと思っています。

しかし糖尿病は皆さんもご存じのように、医師がガミガミしゃかりきにやっても患者さんに心構えがないと血糖コントロールは良くはなりません。逆も然りです。患者さんと医師の両輪が順調に回って大きな効果が出てくる病気だと思います。その中でこの「けやき会」は患者さんと医師が身近に寄り添い、腹を割って話し合うことで、最高の治療を行ってほしいという場所を提供して下さっていると思います。こういった環境は患者さんはもちろん医師にとってもありがたいことだと思います。

医療は今後AIが入ってきて変わっていくかもしれませんが、今はまだ人と人が接して行っていくものです。そのお互いが理解せず大きな力は生まれません。

私は中学高校と野球にあけくれ、大学ではサッカーに興じチームスポーツをずっとやっておりました。チームは一つにまとまった時は実力以上の結果を生み出すことも可能ですが、まとまらずに個人が違い方向を向いていると結果はついてきません。チームけやき会も患者さんと医師ががちり手を組んで大きな結果と大きな幸せを生み出していければいいなと思いますので私も微力ながらお役にたてたいと思います。これからもよろしくお願いします。

